

東教大 紛争ますます深刻

半数が誓約書拒否

早くも卒業延期決まる

理学部4年生

東京教育大学理学部で二十日、早くも四年生の半数にあたる百二十八人の卒業延期が事実上決定した。新四年生の授業再開に当たって「オヤジ」(保証人)からの誓約書の提出、つまり実質的なスト禁止を条件としたことと学生が強く反発、先月末の提出期限を過ぎて誓約書、返請書提出をしないため。しかも、学校のこの措置を不成立とする父兄は、誓約書撤回希望を近く学校へ提出する予定で、同大学の紛争はますます深刻になってきた。

父兄が白紙撤回要望

理学部では、来春卒業予定百二十一人、提出者は二百五十六人中百二十八人で五割強に上った。だが、同学部評議員即東大教授は「三十日までに提出しないと単位認定はできない」と学生に通知して、単位取得の権利を事実上放棄したと認めざるを得ない」と既定方針を押し通す姿勢でいる。

理学部が先月十四日から誓約書全宗ではじめたこの授業は、昨九月以降、時限ストで中断した専門科目の補講。単位は年間を通してはじめて認定されたため、昨年度の中断後の授業が六月中旬ごろまで全部消化して、昨年度百二十人の父兄中百二人が「現在の門科目の単位を認定、そのあと今度の誓約書は学生の人権、感情を無視したものである。学校は誓約書がなくとも入構を認めてほしい」と白紙撤回希望を当局電頭学長代行あてに提出する方針でいる。こうした「親子共闘」は学園紛争では珍しいケース。加えて理学部教授会と学部教授会の対立もあがり、教育大の前途はますます多難を思わせる。

理学部では、来春卒業予定百二十一人、提出者は二百五十六人中百二十八人で五割強に上った。だが、同学部評議員即東大教授は「三十日までに提出しないと単位認定はできない」と学生に通知して、単位取得の権利を事実上放棄したと認めざるを得ない」と既定方針を押し通す姿勢でいる。

理学部が先月十四日から誓約書全宗ではじめたこの授業は、昨九月以降、時限ストで中断した専門科目の補講。単位は年間を通してはじめて認定されたため、昨年度の中断後の授業が六月中旬ごろまで全部消化して、昨年度百二十人の父兄中百二人が「現在の門科目の単位を認定、そのあと今度の誓約書は学生の人権、感情を無視したものである。学校は誓約書がなくとも入構を認めてほしい」と白紙撤回希望を当局電頭学長代行あてに提出する方針でいる。こうした「親子共闘」は学園紛争では珍しいケース。加えて理学部教授会と学部教授会の対立もあがり、教育大の前途はますます多難を思わせる。

5/1 朝刊

ロックアウト状態で授業再開しない

東教大文学部 教授会決める

東京教育大学文学部教授会が、給学校における非協力教育の「ロックアウト状態のままでは授業再開はしない」とを決定、方針に教授会が反対を表明したのは島電頭学長代行あてに通知し、はじめて。

この回答は学校側からの「当面排除を容許して以来、学校側の方針に教授会が反対を表明したのは初めて。

「本学では現在学生、大学師生の正当な権利を無視するおそれのある方法(誓約書)によって入構が許可されているが適切ではないと考へる。文学部教授会は卒業生に平等な条件で自由に授業に参加してもらふ機会を与えなければならないと判断する。(中略)大塚キヤンパスのロックアウトが解除されれば全面的に授業開始の予定」となっている。同学部の中野原評議員は「ロックアウトを解除すれば授業を再開するという意味は、裏を取れば、ロックアウトのままの授業再開には応じないと考えている」といっている。

5/7 ヨミウリ朝刊